

「J」ナース通信

2016年10月
第1号



本学は平成26年7月から、山形発・地元ナース養成プログラムに取り組んでいます。このプログラムは、文部科学省の「課題解決型高度医療人材養成プログラム」という補助金を受けている事業です。この補助事業は「我が国が抱える医療現場の諸課題等に対して、科学的根拠に基づいた医療が提供でき、健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人材を養成するため、大学自らが体系立てられた特色ある教育プログラム・コースを構築する事業」です。看護系大学対象の部門については、全国66件の申請に対して、選定件数は本学を含めて5件でした。公立大学では本学のみで、全国・世界に成果を発信すべき責任ある立場です。

この地元ナース養成プログラムの展開については看護学科がその中心を担いますが、前田邦彦学長が事業推進代表者であり、大学全体の取組として位置づけられています。また、プログラム推進のため、専任教職員を配置した看護実践研究センターも新たに設置しました。

今日の地方は、超高齢化と人口減少の同時進展、医療資源と公共交通機関の少なさ等、都市部とは様相が異なる課題に直面しています。この地元ナース養成プログラムは、このような地方の課題解決を看護の立場から目指すものです。ところで「地元ナース」という言葉は、本学がこのプログラムのために新しく作った言葉で「地方の住民が頼りとしている地元の小規模病院等で、地元住民の多用な健康問題に幅広く対応できる看護職」を指す言葉です。そして、この地元ナース養成プログラムは、次の三つの柱から構成されています。

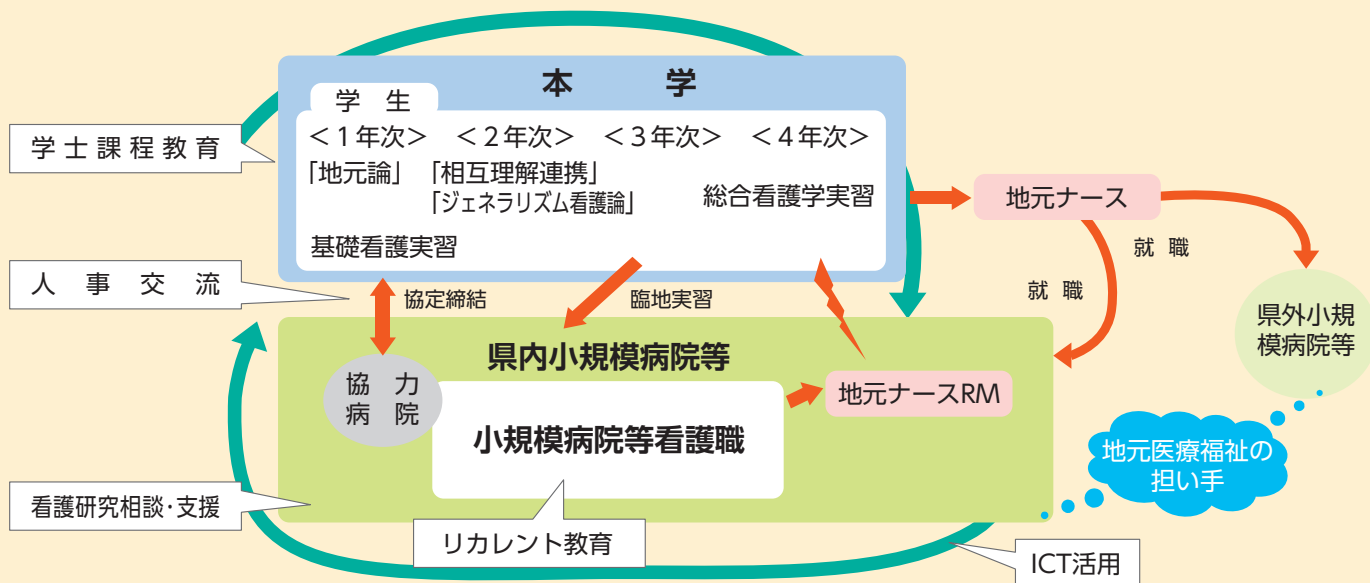
- 1 学士課程教育の開発；従来の看護教育に加え、地元医療福祉への理解を深める講義や実習の方法を開発し、大卒看護職が地元医療福祉の担い手となる基盤づくりを目指す。
- 2 小規模病院等看護職を対象とし教育方法・内容の開発；小規模病院等の看護職が地元の医療福祉の担い手としてその役割を再認識し発展的な看護実践力の向上を図るリカレント教育の開発や、看護研究相談・支援を行う。そして、リカレント教育修了者が地元ナースのロールモデル(地元ナースRM)として小規模病院等で臨地実習を展開できるための基盤を形成する。なお、その実施においては最新のICTの効果的活用を目指す。
- 3 人事交流；小規模病院等の看護職と大学の看護学科教員間で人事交流を行い、相互理解と教育力向上を目指す。

このように、地元ナース養成プログラムは、山形県内のみならず超高齢化と人口減少が進展している地域が抱える課題を解決していくものです。

Jナース通信は、この地元ナース養成プログラムをより多くの方に知って頂くために発行するものです。このJナース通信が、先駆的事业である地元ナース養成プログラムの発展に繋がることを期待しています。本号では、小規模病院等ブラッシュアッププログラムを取り上げました。Jナース通信をお読みいただいで感想や意見をお寄せいただければ幸いに存じます。また、専用のホームページ(<http://jimoto-nurse.jp>)も是非ご覧ください。

事業推進責任者 菅原 京子 看護学科教授

◆「山形発・地元ナース養成プログラム」事業主な取り組み事業イメージ図



小規模病院等 看護ブラッシュアッププログラム

小規模病院等の看護師を対象としたリカレント教育を実施しました。

今年度も昨年度に引き続き、小規模病院等の看護職を対象とした「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」を8月9日から9月29日にかけて実施しました。このプログラムは、本学が山形県内の小規模病院・診療所、高齢者施設に勤務する看護職の方々を対象に、小規模病院等の看護職の方々が地元の医療福祉の担い手として、発展的な看護を実践する能力の向上を図ることを目的に実施しているものです。

なお、このプログラムは、学校教育法に基づく履修証明プログラムとなっているので、全部の講習を受講し修了と認められた方には「履修証明書」が交付されることとなっています。もちろん、個々の单元ごとの受講も可能となっているので、自分の学びたい講義を組み合わせ受講している方もおります。

今回は概ね週に2日のペースで延べ21日間の講習となりましたが、県内各病院等から34名の看護職の方々が受講されました。

また、このプログラムでは、ICTを活用してパソコンで受講できる講習もあります。大学に来て講義を受けることが難しい遠隔地の病院等の方にはICTで受講している方もおります。大学と病院をネットで繋いで、講義や演習を受講したり、大学にいる先生や受講生とネットで質問や議論等を行ったりしました。

プログラムの内容

○看護の動向と課題

○根拠に基づく看護

(看護過程、フィジカルアセスメント、高齢者の看護、認知症の看護、災害看護、緩和ケアの看護、褥瘡ケアの看護、摂食・嚥下の看護、糖尿病の看護、リハビリテーションの看護、急変時の看護)

○地域密着連携

(地域医療連携、連携のためのスキル、地域医療の実際、地域連携事例検討)

○看護研究の基礎

(看護研究の進め方、質的・記述的研究、量的研究、研究計画の作成と発表のルール)



ブラッシュアッププログラム

受講生から

- ◇中堅の時期に入って、基礎から学び直しをしたいという思いで参加しました。新鮮な学びが得られています。似た状況の県内の仲間と一緒に学び過ごすことで、お互いの情報交換も出来て楽しく過ごせます。
- ◇地域の病院としての役割を再認識したいという希望がありました。他の病院・施設の方と一緒に学ぶことで、お互い情報交換でき、勉強になっています。
- ◇在宅看護の現状・課題を学ぶことで、施設での自分の役割も前向きに捉えられるようになりました。
- ◇久しぶりに学生時代に戻ったように、楽しく学んでいます。新たな知識を得ることが出来て、職場に生かすことが出来るのが楽しみです。

地元で活躍する看護師



「小さな病院の大きな役割」

最上町立最上病院 総看護師長 阿部 千句美

この度、県立保健医療大学様の「山形発・地元ナース養成プログラム」の取り組みを縁に、小規模病院で働いている私の思いを書かせていただくことになりました。

地元の小さな病院で働いていますと、保健医療大学の看護学生さんは優秀な方々で研究や勉学に励み、就職は大規模病院や保健師、あるいは大学院進学が多く、地元の小規模病院に就職することは少ないというイメージがあります。

私はここ最上の地に来て約30年になりますが、改めて思うことはどんな小さな町の小さな医療機関であってもその土地で暮らしている住民にとっては、なくてはならない病院であるということです。

私は宮城県栗原市に生まれ、小学生の時に病気で母親を亡くしたことが看護師になるきっかけでした。岩手県立一関高等看護学院を卒業後、助産師を目指し国立仙台病院看護助産学校(現国立病院機構仙台医療センター)に進学し地元の公立築館病院(現栗原市立栗原中央病院)に就職しました。結婚を機に最上町立最上病院に助産師として10年勤め、その後看護師として勤務し現在に至っております。その当時にとりあげた赤ちゃんが成人し家族と来院され声をかけて頂いた時は感慨深いものがありました。

現在は小児から高齢者まで小規模病院ならではの地元密着型の温かい看護の提供を心掛け、地元の方々との繋がりを大切に在宅医療(訪問診療・訪問看護)にも取り組んでおります。自宅で最期まで安心して暮らしたいという地域住民の思いに応えられるよう努力していきたいと思っております。

看護スタッフは平均年齢がややアップしてきましたが、院内外問わず様々な研修会に参加し、新しい知識技術の習得に頑張っています。ベッド数70床、看護師数40名と正しく小規模病院ではありますが、和気あいあいとチームワーク良く働いておりそこが自慢のひとつです。

「地域医療」という言葉があります。小規模病院では高度医療はできませんが、地元の方々に寄り添い、医

療を受けられる最後の砦としての使命があり、私たちがこの町の地域医療を担っているんだという誇りがあります。

看護大学生の皆さん、大病院で高度医療に携わるもよし、看護教育の道に進むもよし、地元住民のために働くもよし。自分なぜ看護師を目指したのか、どのような看護師になりどのように働きたいのかをふと立ち止まって考えてみるのもよいのではないのでしょうか。

これからの医療を担っていかれる皆さんに大いに期待しております。



協力施設について

「山形発・地元ナース養成プログラム」事業では、小規模病院等で、地元住民の多用な健康問題に幅広く対応できる「地元ナース」を養成する体系的な取り組みを進めることとしています。そのためには、地域の小規模な病院や高齢者施設のご協力は欠かせません。現在、次の8つの施設と「連携に関する協定書」を締結しています。

連携協定書では、①看護実践の向上に関する事、②教育(臨地実習を含む。)及び研究に関する事、③人材養成及び人事交流に関する事、④「山形発・地元ナース養成プログラム」の広報に関する事等について連携を行うこととしています。

本学のこの取り組みにご賛同いただき、事業の実施にご協力いただける施設を募集しています。この取り組みに興味や関心がある方は看護実践研究センターまでご連絡ください。

事業推進体制 協力病院等



● 編集後記 ●

初めまして。お陰様でこのたび、「Jナース通信」第1号を発行することが出来ました。皆さまのご協力に感謝いたします。このJナース通信では、地元ナースの取り組みや、地域の医療福祉に携わる素敵な看護職の皆様をご紹介します。次号もお楽しみに。(SS)

編集・発行



山形県立保健医療大学
看護実践研究センター

〒990-2212 山形県山形市上柳260番地
TEL/FAX 023-686-6614
<http://jimoto-nurse.jp/>
info@jimoto-nurse.jp